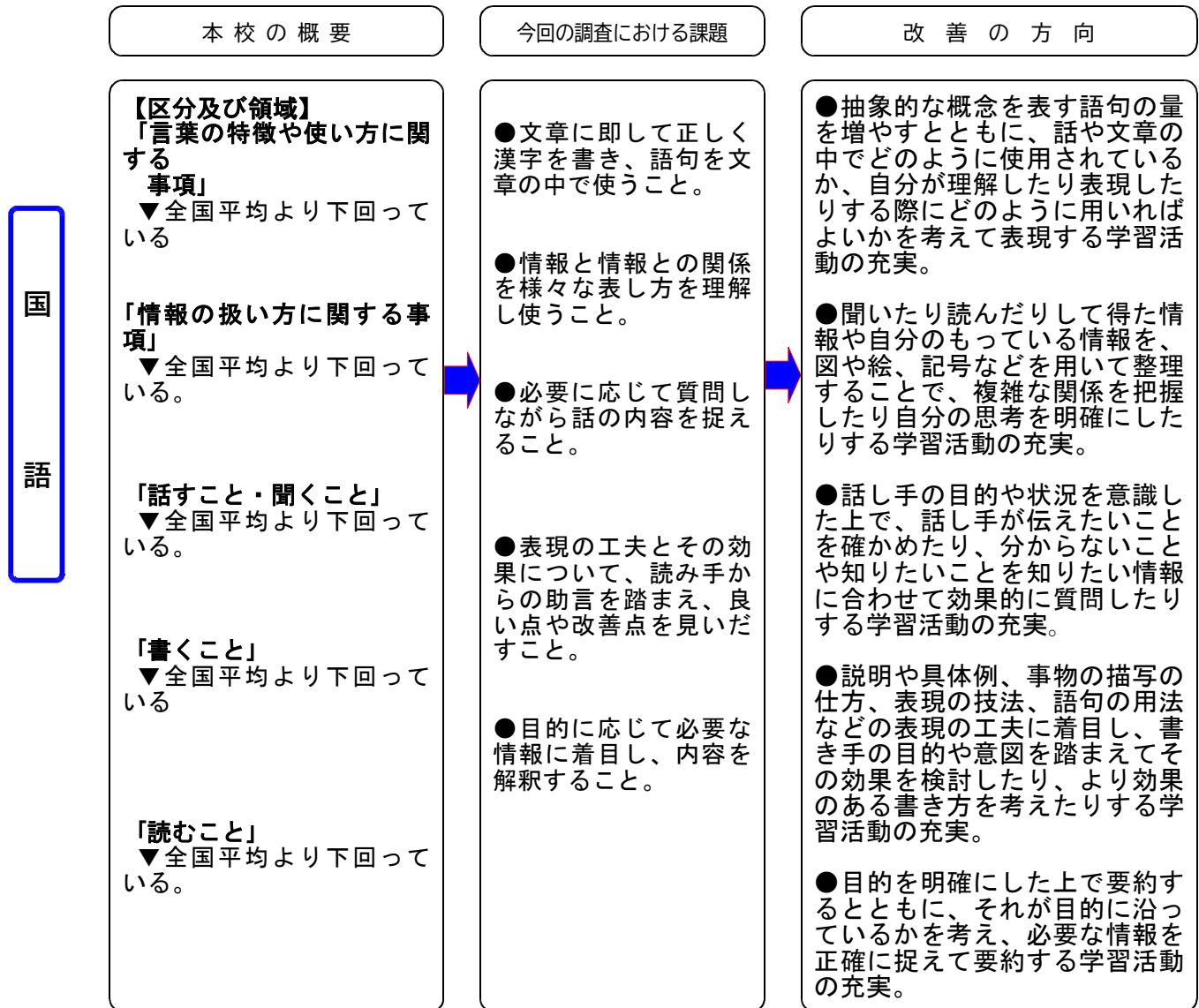


令和8年度全国学力・学習状況調査の結果について

今年度4月に、3年生を対象とした「全国学力・学習状況調査」が実施されました。全国との比較を基に本校の調査結果の概要をお知らせいたします。また、本校としての課題、改善の方向についてまとめましたので、併せてお読みください。今後の教育活動の改善に役立てていきたいと考えております。



全国の平均正答率と比較し、「－3.0ポイントの範囲内で全国平均を下回っている場合 → “全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている”」「－3.1ポイント以下 → “全国平均より下回っている”」と表記しています。

【区分及び領域】

「数と式」

▼全国平均より下回っている。

「図形」

▼全国平均より下回っている。

「関数」

▼全国平均より下回っている。

「データの活用」

▼全国平均より下回っている。

●同類項の意味を理解すること。

●具体的な事柄を基に、証明する事柄の過程を見いだすこと。
例) 角の二等分線の作図を行った際の仮定や結論を答える。

●反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、 x の値に対応する y の値を求めること。

●数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。

●箱ひげ図と四分位数の対応について理解すること。

●データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明すること。

●多項式の各項を係数や文字の種類、次数などに着目して分類したり、文字の種類や次数が異なる文字の項どうしがまとめられない理由を考えたりする学習活動の充実。

●与えられた条件に基づいて実際に作図等の操作を行ったうえで、辺や角の関係を見いだす場面において、行った操作を振り返りながら直接分かることや証明すべき事柄を整理し、数学的に表現する学習活動の充実。

●表から分かる二つの数量の変化や特徴を調べたり、気付いた特徴を用いて対応する値を求めたりする学習活動の充実。

●二つの数量の関係を捉えたうえで、解決のために表、式、グラフをどのように用いればよいか説明する学習活動の充実。

●具体的な事象を表した複数の箱ひげ図から四分位数などの値を読み取ることで、データの分布に着目する学習活動の充実。

●箱ひげ図と度数分布多角形を関連付けながら、度数分布多角形からさらに詳しく特徴を捉えたり、複数の度数分布多角形の位置関係の違いから言えることを説明したりする学習活動の充実。

全国の平均正答率と比較し、「 -3.0 ポイントの範囲内で全国平均を下回っている場合 → “全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている”」「 -3.1 ポイント以下 → “全国平均より下回っている”」と表記しています。

【区分及び領域】

「聞くこと」

「読むこと」

「書くこと」

● 日常的な話題に関する内容を聞き、概要を捉えること。

● 日常的な話題に関する内容を読み、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ること。

● 日常的な話題に関する内容を読み、短い文章の概要を捉えること。

● 社会的な話題に関する内容を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くこと。

● 友達や家族、学校生活などの日常的な話題について、一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみとらわれることなく、時間の経過や話の展開を示す語句に着目し、話全体の流れや要旨を捉え学習活動の充実。

● 複数の情報を含むまとまりのある内容を読み、目的や場面、状況等に応じて必要な情報であるのかを判断した上で読み取ったりする学習活動の充実。

● 物語文や説明文等のまとまりのある文章を読み、一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみとらわれることなく、物語文では時間の経過や場面の变化に即して登場人物の行動や心情を捉え、説明文では段落ごとの話題や主な内容を段落間の関係に照らしてつなぎ合わせ、文章全体の内容を理解する学習活動の充実。

● 説明文等のまとまりのある文章を読み、筆者の主張を捉えた上で、その内容に関する賛否や自分の意見、その理由や根拠の関係を明確にしながら内容を整理して書く学習活動の充実。

英語においては、領域ごとの平均正答率が示されていません。また、「話すこと」は、まだ結果が提供されていません。

生徒質問紙調査結果より

○相互承認（自己承認、他者への承認、他社からの承認等）に係る項目

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合 単位：％

質 問 事 項	本 校	全 国
自分には、よいところがあると思いますか	79.4	84.0
将来の夢や目標を持っていますか	67.7	67.6
人が困っているときは、進んで助けていますか	85.3	90.8
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	92.7	71.9
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.1	95.9
学校に行くのは楽しいと思いますか	82.4	85.4

「相談できる大人(92.7%)」や「人の役に立ちたい(96.1%)」という数値が高く表れている一方で、まだ悩みや不安を抱えている生徒もいることをふまえつつ、学校がより多くの生徒にとって安心して過ごせる居場所となるよう努めてまいります。また、「自分にはよいところがある(79.4%)」等の自己肯定感や、実際の行動(85.3%)は全国平均をわずかに下回りました。貢献意欲がありつつも、自信のなさから慎重になっている様子が見えられます。今後はこの安心感をベースに、日々の頑張りを認めて褒める「自己肯定感を高めるアプローチ」に全校で取り組みます。

○主体的・対話的で深い学びに係る項目

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合 単位：％

質 問 事 項	本 校	全 国
1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	60.8	65.5
1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	83.3	78.8
1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	57.8	70.8
1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	67.6	78.9
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	84.4	87.0
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	73.5	79.0

「自ら課題に取り組む(83.3%)」や「話し合いで考えを深める(84.4%)」という数値が高く、主体的に仲間と学ぶ土台が育っています。一方、自分の考えを「まとめる(57.8%)」「工夫して発表する(60.8%)」ことや、自分に合った学びの実感には課題が残ります。今後は、強みである主体性や話し合いをベースにしつつ、「アウトプット(まとめる・伝える)の力」を高める授業改善と、一人ひとりの理解度に応じた「個別最適な学び」の環境づくりをしていきたいです。

○全国と比較して、80%を超える肯定的な回答が多かった質問

- ・あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)ことができますか 96.1%
- ・友達関係に満足していますか 93.1%
- ・先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか 92.2%
- ・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか 92.2%
- ・あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができますか 89.2%
- ・先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか 88.3%
- ・あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができますか 87.2%
- ・総合的な学習の時間では、PC・タブレットなどのICT機器を使って、うまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできていますか 83.3%
- ・自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか 81.4%
- ・分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか 81.4%

	本校	全国
普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等(以下、「スマートフォン等」)でSNSや動画視聴などをしますか(スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く)※「2時間以上」を回答した割合	77.4	74.9
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)※「1時間以上」を回答した割合	35.3	61.6
学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含む。漫画や雑誌は除く)※「30分以上」を回答した割合	20.6	18.0

「先生や大人にいつでも相談できる(92.7%)」という肯定的な傾向が見られますが、すべての生徒の安心感ではないという視点も大切にしながら、誰一人取り残さない温かい居場所づくりをさらに進めてまいります。また、ネット検索(96.1%)や資料作成(87.2%)など高いICT活用能力を誇り、平日に30分以上読書をする生徒(20.6%)も全国平均を上回っています。一方で、平日の家庭学習時間が1時間以上の生徒が35.3%(全国61.6%)と大きく下回り、動画視聴等の時間が長いことや、「自分の考えをまとめて発表する力」の育成が今後の課題です。今後は、強みであるICTスキルや読書の土台を家庭学習の充実に繋げる授業改善を進めます。ご家庭でもメディア時間のルール作りなど、生活習慣の見直しへのご協力をぜひお願いいたします。

課題①: 家庭学習の習慣化 平日の家庭学習時間が「1時間以上」の生徒は35.3%(全国61.6%)と、全国を大きく下回っています。一方で、SNSや動画視聴が「2時間以上」の生徒は77.4%(全国74.9%)と高めです。課題②: 思考力・表現力の育成 「学んだことを生かして自分の考えをまとめる(57.8% / 全国70.8%)」「資料や話の組立てを工夫して発表する(60.8% / 全国65.5%)」の項目に伸びしろがあります。

保護者の皆様におかれましては、お子様がデジタル機器に触れる時間と、机に向かう時間のバランスなど、ご家庭での「ノーメディアタイム」の設定や声かけなど、生活習慣の見直しへのご協力をぜひお願いいたします。「相談しやすい安心感」をベースに、一人ひとりの可能性を家庭と地域でともに伸ばしていきたいです。

上の表の記載は、全国学力学習状況調査での生徒質問紙の回答結果です。現在の3年生の4月段階の調査であり、現在の米里中に全てがはまるものではありませんが、これらの情報を生かし、生徒一人ひとりが充実した学校生活となるように、教育活動の質の向上を図っていきたいと思います。3年生の生徒には9月初旬に、全国学力・学習状況調査テストの結果を渡しました。確認していただき、学習面でのお子様の成果や課題について話し合ってくださいと思います。